



1

私は暴力を防ぐための行動をとります

私はすべての身体的、心理的、言葉による暴力を防ぎます。子ども同士の暴力も同じです。子どもをあだ名では呼びません。

2

私は違和感について話します

子どもや大人の行動や様子について違和感があるとき、専門職や専門機関に伝え、意見を求めます。

3

私は誰から見ても認められる行動をとります

未成年に対し何か言ったり行動したりするとき、それは同僚や上司や子どもの親など他の誰が見聞きしてもおかしくない、大人としての言動をとります。

4

私は未成年の自由な時間を尊重します

子どもや若者が想像力を働かせ、プライベートな世界を育てることができるために、何もなくていい自由時間をつくり、画面(テレビ、ゲーム、携帯電話、パソコン等)を見ていない時間を確保し、それを尊重します。

5

私は自分の立ち位置を意識した行動を常にとります

私は責任ある大人として行動するので、子どもや若者と同じ立場ではないことを自覚しています。遊びの中でも同じです。専門職や大人として適切な距離を考え、子どもから打ち明け話があったときも、大人としてとるべき行動をとります。

6

私は何も見返りを求めません

未成年から認められることや、感謝されることを求めません。大人は未成年のケアをする役割があります。未成年は大人に感謝する必要はありません。

7

私は子ども若者それぞれに公平に接します

すべての子どもについて同じように気かけます。特別扱いをしたり、子どもに気に入ってもらおうとするような行動はしません。

子どもや若者は、年齢・性別・社会的環境にかかわらず、性暴力の被害にあう可能性があります。富裕層も貧困層も同じです。加害者は、他の子ども、若者、大人(男女両方)、いずれもあります。家庭内、学校や習い事など、あらゆる場所で起こります。

この7つのルールは、子どもたちを尊重した枠組みを築くための指針です。子どもたちが愛情面、身体面、心理面において安全に、それぞれのリズムで成長していけるためのものです。

子どもが安全ではないかもしれないと思うとき、暴力の可能性があると感じたときは、日本の児童相談所(189)など、専門の支援機関に連絡してください。